



A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎

🔍 病気の説明 (どんな病気?)

A群溶血性レンサ球菌による感染症で、学童期の小児に多く発生しますが、成人でもみられます。突然の発熱、のどの痛みで発症し、イチゴ舌(舌が真っ赤になり小さなブツブツが見られる)を伴うこともあります。熱は3~5日位で下がり、1週間ほどで症状は改善します。まれに、菌の毒素により全身に発赤がひろがる「しょう紅熱」を起こしたり、急性リウマチ熱や急性糸球体腎炎を続発することがあります。

🔍 予防 (感染はどう防ぐ?)

飛沫感染(咳、くしゃみ、唾液など)、接触感染(感染者の飛沫などに触れた手で、口や鼻などの粘膜を触ることによる)です。

潜伏期間は2~5日です。

予防は手洗いや咳エチケットなど、基本的な感染対策となります。家庭内感染を防ぐため、タオルやコップなどの共用は避けましょう。



🔍 治療 (感染したときは?)

抗菌薬で治療します。のどの痛みがひどい場合は、柔らかく薄味の食事を工夫し、水分補給を心がけましょう。

🔍 登園・登校の基準

適切な抗菌薬治療を開始すると、24時間以内に他者への感染力は消失するため、それ以降は登園・登校が可能であるとされています。ただし、症状の改善後も、定められた期間は抗菌薬の内服を継続することが重要です。

🔍 詳しく知りたい方は [A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは \(niid.go.jp\)](https://niid.go.jp)

🔍 横浜市の流行状況 [横浜市感染症情報センター 横浜市 \(yokohama.lg.jp\)](https://yokohama.lg.jp)

